

# 訂正とおわび

本誌のバック・ナンバーにおいて、下記の個所に誤りがありました。おわびして訂正いたします。 <https://toragi.cqpub.co.jp/tabid/928/Default.aspx> (編集部)

## ■ 2021年7月号

### ● 特集3章

p.51 図1：吹き出し「47  $\mu$ F導電性高分子アルミ固体電解コンデンサ」は、1つ下の曲線を指す

p.53 図5：赤色の曲線を削除、キャプション：印加電圧→耐圧

p.54 図6(a)：吹き出し「トランス HT 2005の等価回路」は赤色のブロックを指す

p.61 図18：“設計の順序”の冒頭に式“ $C_1 = n \cdot C_2$ ”を追加

### ● 特集4章

p.77 右段↑4行目：電源回路に使う場合→直流が加わる場合

### ● 一般記事 ArduinoでCAN通信実験

p.135 図B：ピン番号のA5, A4, A6など一部間違いがありました。正確なピン

はデータシートを参照ください。

p.135 図B：AT90CAN(28)→AT90CAN128

p.135 図B：吹き出し「CAN通信用の端子」は、CANH, CANLを指す

p.136 図C IC<sub>1</sub>の20/34/33/1ピンに負論理記号「○」を追加

p.136 図C：IC<sub>1</sub>の61ピン A3→A0, 27ピンRX11→RX12, 28ピンTX01→TX02, 右上R<sub>1</sub>とR<sub>3</sub> 220k→220  $\Omega$

p.136 図C：右上の吹き出し「RS485通信を使う場合、はんだ付け」は、JP<sub>6</sub>, JP<sub>7</sub>だけを指す。JP<sub>5</sub>は「RS485通信で終端抵抗を使用する場合、はんだ付け」

### ● 連載 パワー・スイッチ(MOSFET)の実践活用技術

p.145 右段の式：

$$I_{rms} = \sqrt{\left(\frac{\tau}{T}\right) \cdot I_D} \rightarrow I_{rms} = \sqrt{\left(\frac{\tau}{T}\right) \cdot I_D}$$

$$P_{sat} = \left\{ \sqrt{\left(\frac{\tau}{T}\right) \cdot I_D} \right\}^2 \cdot R_{DS(ON)} \\ = \left\{ \sqrt{\frac{1.9 \mu s}{6.7 \mu s} \cdot 10 A} \right\}^2 \cdot 40 m\Omega$$

↓

$$P_{sat} = \left\{ \sqrt{\left(\frac{\tau}{T}\right) \cdot I_D} \right\}^2 \cdot R_{DS(ON)} \\ = \left\{ \sqrt{\left(\frac{1.9 \mu s}{6.7 \mu s}\right) \cdot 10 A} \right\}^2 \cdot 40 m\Omega$$

### ● 連載 新人技術者のためのアナログ回路設計スタディ

p.159 左段↑11行目：表5 計算部のメモ欄→表4 計算部のメモ欄